

監査結果公表第19-2号

随時監査（工事監査）の結果の公表について

地方自治法第199条第5項の規定による随時監査（工事監査）の結果について、同条第9項及び八尾市監査委員条例第8条の規定により公表します。

平成19年4月26日

八尾市監査委員	西 浦 昭 夫
同	北 山 諒 一
同	大 松 桂 右
同	田 中 裕 子

記

1 随時監査（工事監査）対象工事

第5回工事監査

飛行場南側排水路関連浸水対策工事

第6回工事監査

高美町四丁目公園整備工事

2 監査の結果

別紙のとおり

3 問合せ先

八尾市本町一丁目1番1号

八尾市監査事務局

電話番号 072-924-3896（直通）

4 その他

監査結果については、市役所3階の情報公開室及び八尾市ホームページでも閲覧できます。

八尾市長 仲村晃義様
八尾市議会議長 林洋雄様

八尾市監査委員 西浦昭夫
同 北山諒一
同 大松桂右
同 田中裕子

随時監査結果報告書

地方自治法第199条第5項の規定による随時監査(工事監査)を実施したので、その結果を同条第9項の規定により提出する。

記

1 監査の実施日及び対象工事

第5回及び第6回工事監査

実施日 平成19年2月14日及び15日
対象工事 飛行場南側排水路関連浸水対策工事
及び高美町四丁目公園整備工事

2 監査の目的及び着眼点

工事が関係法令等にのっとり適正かつ合理的に行われているかどうかを主眼として、関係図書類及び現地での施工状況を審査し、また担当職員から執行状況の説明を聴取するなどの方法で実施した。

なお、実施にあたっては、(社)大阪技術振興協会に委託し、同協会技術士作成の工事技術調査報告書を参考にした。

3 監査の結果

工事の実施について、契約関係書類及び設計図書等の処理並びに工事施工管理及び現場施工状況は、おおむね適正に執行されていたが、一部の事項について、注意又は検討を要するものが見受けられた。

今後は、これらに十分留意されるとともに、当該監査の結果に基づき又は結果を参考として改善措置を講じたときは、その旨を通知されたい。

第5回工事監査（監査実施日：平成19年2月14日及び15日）

【土木建設課】飛行場南側排水路関連浸水対策工事

1 工事の概要

- (1) 工事場所：八尾市太田新町5丁目地内
- (2) 工事目的：近年発生している都市型集中豪雨等による、太田新町地区の浸水被害を解消すること。
- (3) 工事内容：管路施工延長 L=138.90m

管渠工（φ800	泥濃式推進工法）	L=94.00m
管渠工（φ600	開削工法）	L=17.70m
管渠工（φ400	小口径推進工法）	L=27.20m
3号マンホール		1箇所
特殊マンホール		1箇所
1号マンホール		1箇所
付帯工		1式
- (4) 工事費：請負金額 ¥81,585,000（消費税含む）
（落札率 92.3%）
- (5) 工事期間：平成18年11月16日～平成19年 3月31日
- (6) 施工業者：株式会社 北川建設
（11社条件付一般競争入札にて落札）

2 監査の結果

平成19年2月14日現在における本工事の出来高は8.5%であり、推進管の発進立坑の掘削作業が行われている状況であった。なお、特に指摘すべき重要な事項は見当たらなかったが、調査した事項のうち主な内容の要点を各項に示し、今後の施工に特に望まれる個々の指摘事項について、下記に示すものとする。

(1) 設計について

No.1組立3号マンホールに流入される、φ600mm及びφ400mmの管渠は共に副管が必要となるが、上下に重なる形となり、φ600からφ400に副管が取り付けられ、かつφ400から人孔インバートに副管が取り付けられる2段構造となっている。φ600からの落下水がφ400の流水を阻害することが考えられるため、好ましい構造とは言い難い。2本の管渠からの副管が各々機能するよう平面的な配管位置を検討されたい。

また、同人孔に接するようにNTTの管路（2条2段）が復元されることになるが、この管路の埋戻しに伴う沈下を最小に抑えることが必要である。最も効果のある沈下防止対策を設計上検討しておくことが望まれる。

(2) 積算について

本工事では、急曲線（半径10m）施工という条件から泥濃式推進工法が唯一施工に適していることから採用に至っている。なお、この急曲線施工のための6分割可能な推進管の単価は、3社見積りのうち最低値に対し、掛率を用いて採用していた。普通推進管の単価に対し、相当のコスト高となっていた。急曲線施工を採用しない場合の費用は、この程度のアップ費では収まらないものと判断されるが、概略の費用比較を示しておきたい。

(3) 施工について

ア 施工計画書について

(ア)土留鋼矢板の打込み高さの精度が±80mmとなっていたが、大阪府の同規格値は±50mmであるので訂正しておくことが必要である。

(イ)発進立坑の土留め施工図にN T T管路の懸垂桁及び吊り防護関係の図を示されたい。

また、埋戻しによるN T T管路に対する沈下防止対策も示しておくことが望まれる。

イ 使用材料承諾書類について、コンクリート強度が18N/mm²のものが提出されていたが、この水セメント比は66%となっていた。均しコンクリートに使用するもので強度を指定しないものであるとのことであるが、水セメント比規定である65%以下（土木学会）の範囲を満たしていないものであるので留意されたい。

ウ 立坑の基地には工事資材が仮置きされているが、限られた面積であるため常に整理整頓に努められたい。

エ 本工事の工程は予定より遅れており、工期内竣工は困難だと思われ、年度繰り越しは現在の状況ではやむを得ないものと判断される。早期に手続きを行うと共に、新たな工期設定をよく検討しておくことが必要である。また、これにかかる借地の延長や鋼矢板などの賃貸期間の延長に関する処置も実施しておくことが望まれる。

オ 立坑出入用昇降はしごの固定や安全施設の点検を行っておくことが望まれる。また、必要な照明や入坑者の明示等の整備を行うと共に、立坑内に小石等が落下しないよう、地上部立坑周辺の養生を行っておくことが必要であると思われる。

(4) その他

この事業を実施することによって当該地域の浸水被害がどの程度緩和されることになるのか市民に分かり易く説明できるようにしておくことが望まれる。

第6回工事監査 (監査実施日：平成19年2月14日及び15日)

【みどり課】高美町四丁目公園整備工事

1 工事の概要

- (1) 工事場所：八尾市高美町四丁目地内
- (2) 工事目的：幼児・子供から高齢者まで多くの市民に利用できるよう、身近な憩いの場やレクリエーション活動の場となる公園及び防災機能を付加した公園として整備すること。

(3) 工事内容：公園面積	A=1,100 m ²		
基盤整備		敷地造成工	N = 1 式
植栽		高木植栽工	11 本
		中低木植栽工	155 本
		地被植栽工	918 本
施設整備		給水設備工	N = 1 式
		雨水排水設備工	N = 260.1m
園路広場整備工		土系舗装工	A = 459.0 m ²
		園路縁石工	L = 233.8m
污水排水設備		污水排水設備工	N = 1 式
遊戯施設整備工		複合遊具	N = 1 基
		スプリング遊具	N = 2 基
サービス施設整備工		ベンチ	N = 5 基
		柵工	L = 62.2m
		四阿	N = 1 基
		パーゴラ工	N = 1 基

- (4) 工事費：請負金額 ¥28,995,750 (消費税含む)
(落札率 90.5%)

- (5) 工事期間：平成18年9月26日～平成19年2月28日

- (6) 施工業者：樋口造園 樋口 恭輔
(25社指名競争入札にて落札)

2 監査の結果

平成19年1月31日現在における本工事の出来高は約80%で、四阿や遊具等の施設物はほぼ完了している状況で全般に良好な施工状況であった。特に指摘すべき事項については見当たらなかったが、留意が望まれる点については、下記に示すとおりである。

(1) 設計について

特記仕様書において、鉄筋の仕様がSD295Aとなっているが、SD345の誤りであるので訂正されたい。

また、植栽のための植穴のバーク堆肥の配合比が、埋戻し土：バーク堆肥＝8：2とされていたが、正しくは「埋戻し土（容積）に20%のバーク堆肥を添加する」と表現することが必要であるので今後とも留意されたい。

(2) 積算について

遊具等の価格について、3社の見積価格に各種材料毎に掛率を掛け最低値を決定されていた。掛率については物価版にある製品に対し対象業者より見積りを取り、この比率を基

本として決定されていたが、設計図書において価格の算出過程を分かり易く整理しておくことが望まれる。

(3) 施工について

ア 本工事の施工計画書は細部に至るまで詳しく記載されていたが、各種工事の内容は同一の表現が多いものとなっていた。本工事のような細かな工程が多い工事では、各工種の施工ポイントとなるところを重点的に記載することが望ましいので今後留意されたい。

イ 植栽木の産地での写真において、高さ、枝幅は寸法が判別できるが幹回りの写真がないので、現場に持ち込まれた段階で立ち会いの上確認し、写真撮影を行っておくことが望まれる。

ウ 産業廃棄物処理の処理伝票（マニフェスト）のE票のコピーが不鮮明であった。コピーの濃度設定を変えるなど判読できるようにコピーをしておきたい。

エ インターロッキングブロック端部の仕上げに曲線が多いこともあり、目地が比較的大きく開いていたり、四阿基礎付近の小片となるブロックが詰めてあるところでは、容易に抜ける状態であった。今後は硅砂を確実に詰めると共に、色合わせしたカラーモルタルにて周辺を仕上げるなどの工夫を行うことが望まれる。

(4) その他

工事の竣工に当って地元自治会と確認を行うと共に、防災備蓄倉庫等の今後の維持管理についても十分協議をしておきたい。